

(7) 八東中学校

学 校 長 東 卓志
校内研究代表者 矢野川 研

1. 研究主題 「認め合い、高め合う 生徒の育成とわかる授業の創造」

2. 主題設定の理由

本校の生徒は素直で明るく、規範意識も高く落ち着いて授業に取り組むことができる。また、部活動や学校行事にも全学年で積極的に取り組んでいる。しかし、「やらなければならない」ことはきちんとできて、自分たちでさらに良いものを作り上げようと創意工夫する力は十分とはいえない。そのため、学校の教育活動全体を通して、学びと自己の将来とのつながりを見通しながら、豊かに生きるための資質・能力を身につけていくことが課題である。

今後の指導においては、学校生活や授業の中でお互いに関わり合いを持たせながら、教員が主体的で対話的な深い学びを保障する授業を展開し、生徒にとって困難な課題に対しても共に解決をめざして取り組んでいこうとする前向きな姿勢を高めていくことが必要である。そこで、本校の教育目標である「認め合い 高め合う」を集団づくりの基本として、各教科や特別な教科道徳を校内授業研究の柱として取り組むこととした。更に日々の授業において、指導方法の工夫改善を研究することで、生徒一人ひとりの学習への意欲や自信につながるようにすることが必要であることから本研究主題とした。

今年度の取り組みにより、生徒の自己肯定感を育み、生徒が希望する進路の実現に向けた学力の定着と向上を図っていきたいと思う。

3. 研究の進め方と方法

①研究の内容

- (1) 授業改善と学力向上
- (2) 授業と家庭学習のサイクル化、保小中連携
- (3) 教科間連携の研究
- (4) 特別な教科道徳の指導と評価
- (5) 特別支援教育

②研究方法

- (1) 全教員による授業公開と校内研修日の設定（月3回）
 - ・「学力向上部」「生活向上部」の2部会に全教員が所属し、取組の提案と検証を行う。
- (2) 家庭学習と授業への関連づけ→家庭学習アンケートによる実態の把握
 - ・小中合同で研究授業の参観や研修会を実施→小学校への出張授業（算、理、英）
- (3) 二チームによる授業づくりの検討→事前の指導案検討
 - ・授業の在り方を検討し、授業実施後に全体で協議する。
- (4) 外部講師を招聘しての研修会やNITSを活用した研修の実施
- (5) 中村特別支援学校との交流学习実施と生徒理解

③研究の実施体制

- (1) 研究部会（学力向上部）において、昨年の到達点をもとに計画の立案・調査と進捗状況の確認を行う。
- (2) 研究主任を中心とした指導體制を構築するため、研究についての主旨を研究主任より説明し、全教員が共通認識を持った上で取り組む。
- (3) 研究主任から授業改善にかかる取組についての提案や外部講師を招聘しての研究体制を構築する。
- (4) 教科部会で指導案検討を行い、授業後の反省を全体で行う。
- (5) 八東小学校の取り組みを学び、つながりのある授業形態の研究を深める。
- (6) 八東地区青少年を守る会を通して、保小中の状況報告と取り組み内容の確認をする。

4. 具体的取組

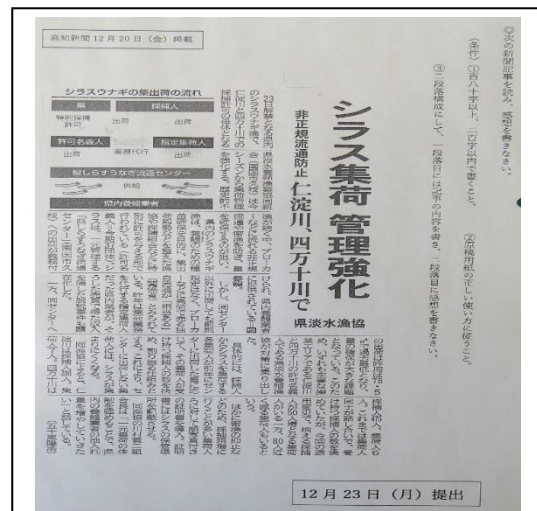
(1) 授業改善と学力向上について

- ・新学習指導要領への対応→指導主事を招聘しての指導・助言と学習指導要領の内容理解
- ・研究授業を実施し、全員が参観→授業チェックシートの活用
- ・授業のあり方について、板書を記録した画像を用いて振り返りを行う。（定期的に普段の授業を記録し、そのデータから授業を振り返る）（図1）
- ・各学力調査の分析と課題克服→チャレンジタイムの有効な活用
- ・授業評価アンケートの実施（年5回）→授業に対する自己点検と評価
- ・新聞を活用した言語活動への取り組み→記載内容を原稿用紙にまとめ発表（図2）

図1>板書を活用



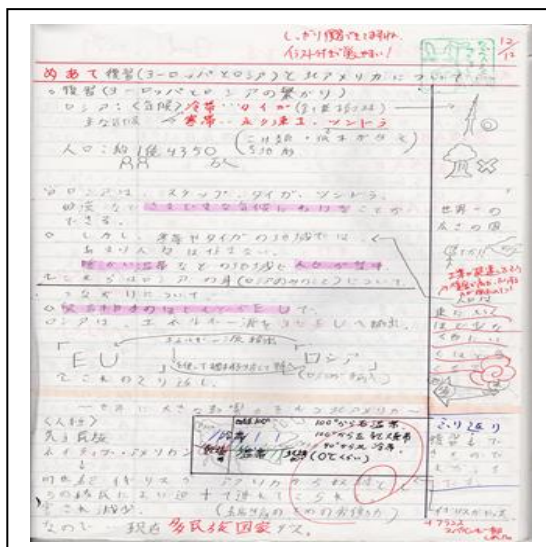
<図2>新聞を活用



(2) 1校1役指定研究「授業と家庭学習のサイクル化、保小中連携」について

- ・家庭学習の見直し、実態の調査、自主学習ノートの指導と書き方の工夫に力を入れ、家庭学習の「質と量」の改善を図る。<図3・4>
- ・家庭学習のサイクル化についての取組表を作成し、学期ごとに各教科で計画の総括と改善策を検討しながら研究内容と進捗状況を教員間で共有した。
- ・家庭学習の取り組み内容を把握するため期間を定めてのアンケート集計を行った→3回
- ・小中の研究主任が連絡会を行い、各校の取組についての情報交換や連携事業等の調整を行った。
- ・年4回小中合同研修会を行い、各校の実践を交流し合うことで9年間を見通した教育活動の構築を目指した。

<図3>評価する



<図4>生徒に返す



(3) 教科間連携の研究について

- ・国社数と理英体の2つの教科部会を構成し、研究授業の指導案作成や模擬授業の実施後 総括やまとめを行ってきた。
- ・各教科で学習している単元を職員室内にあるホワイトボードに掲示することで、各教科の学習内容を把握することができるとともに教科間の横断的な取り組みに生かすことができた。〈図5〉

(4) 特別な教科道徳の指導と評価について

- ・学年ごとに1回は道徳の研究授業を行い授業の改善に努めた。また、指導主事を招聘しての授業の振り返りと指導に関する評価、助言を受けた。
- ・道徳参観日に全校道徳として公開授業を行った。〈図6〉

(5) 特別支援教育

- ・特別支援教育コーディネーターを招聘し、生徒に必要な支援についての研修を行った。
- ・中村特別支援学校との交流学习の実施(10月29日:本校体育館)

(6) その他

- ・生徒会による「グッドノート」、「自主学習コンテスト」を実施した。
- ・不登校やいじめ防止、特別な配慮が必要な生徒への対応等についての研修を実施した。

〈図5〉授業している単元を掲示

曜日	国	社	数	理	英
1	小説	近世A 日本と世界	空間図形	地震	過去形
2	詩	明治 系継新	平行四辺形	天気	比較級 最上級
3	小説	国際 協力	標準語	海の 復習	長文
4	美	家	技	体	



〈図6〉道徳参観日

5. 今年度の成果と課題

今年度は、5つの研究内容を設定して取り組んできた。とりわけ「授業改善と学力向上」と「授業と家庭学習のサイクル化、保小中連携」については、研究の中心的課題として取り組んだ。これらの研究課題に取り組むことは、本校の学力向上に繋がるものと考えている。特に教員一人一人の授業を新学習指導要領で求められている授業に転換していくのかということや、生徒たちが資料から内容を読み取り、資料を活用しながら説明をする力をどのようにして付けて行くのかを本校の課題として取り組んできた。その一つに新聞を活用した取り組みがある。新聞記事からは、資料を適切に引用しながら自分の考えをまとめ、相手に分かるように伝えること。更には、まとめた文章を全校集会で発表することとした。これらの取り組みは、言語活動の充実に繋がっていくものと考えており、今後も取り組んで行く必要がある。

また、授業と家庭学習のサイクル化では、予習を課すことで終わるのではなく、学習してきたことを授業に活用することで、生徒の取り組みを評価し、生徒のやる気を引きだすことに繋がった。教員一人一人は、新学習指導要領で求められる授業づくりへの意識はあるものの、研究した内容や指導方法が生徒の学力向上に結び付いていない等の課題がある。主体的で対話的な深い学びの授業をどのようにして実現すればよいのか、次年度も引き続き研究主題を継続しながら教職員が一丸となって取り組んでいくことが必要である。